

かざ

ぐるま

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2023 夏号

# 101

公益財団法人 和歌山県文化財センター

## 特集 吉原遺跡、 松原経塚の 発掘調査



吉原遺跡 015・023 方形周溝墓 北西から

# 特集 吉原遺跡、松原経塚の発掘調査

## はじめに

吉原遺跡、松原経塚が所在する日高郡美浜町は、和歌山県の中部にあり、太平洋に面しています。町域の東側は日高川が形づくっています。



吉原遺跡、松原経塚の位置



吉原遺跡の既往の調査

県内第2の広さをもつ日高平野の一面を占めています。日高川河口から北西の日ノ御埼に向かつて海岸に沿うように全長約4.5km、幅約0.5kmの砂丘があり、その南東部の砂丘稜線付近に吉原遺跡、松原経塚があります。

日高平野を取り巻く地域には多くの遺跡が遺されています。吉原遺跡にほど近い位置には、弥生時代前期の環濠集落や奈良時代の郡衙が確認された堅田遺跡があります。また、銅鐸が7個見つかったおり、さらに古墳の数も多く、平野部周辺の丘陵上に古墳群がつくられるなど、古くから栄えた地域であったことがうかがえます。

## これまでの調査

吉原遺跡は弥生時代から江戸時代にかけての墓域として知られています。これまでの主な調査としては、当文化財センターが実施した昭和62・63年度、平成28年度、令和2年度の調査があります。昭和62・63年度の調査では、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての方形周溝墓や土壙墓、奈良時代から平安時代の土壙墓、時期不詳の溝状遺構や小穴などが確認されています。平成28年度の調査では、



調査区（南東から）

奈良時代から平安時代の土坑、古代以前の列石状遺構、中世から近世の火葬墓が確認されています。また、令和2年度の調査では、弥生時代と古墳時代の土器埋納遺構のほか土坑や溝状遺構などが確認されています。

なお、松原経塚については、工場敷地を造成した時に土器や鏡が発見されましたが、その後、調査は行われていません。遺物の内容からは、墓であった可能性もあり、吉原遺跡の一部と考えて良いかもしれません。

## 今回の調査

今回の発掘調査は、県道の整備事業に伴う

もので、令和4年11月～令和5年3月にかけて、面積369.6㎡を対象に実施しました。

検出した遺構には、方形周溝墓7基（図中赤色部分）、土坑、奈良時代の火葬墓1基などがあります。調査区が狭いことから、全容が明らかになった遺構は少なく、ほとんどの遺構は、その一部を検出した程度です。また、方形周溝墓については、上部が削られていたため主体部は検出されませんでした。なお、方形周溝墓の時期については、出土遺物や構造などから004方形周溝墓のみが弥生時代中期、他は弥生時代後期末から古墳時代初期であると考えられます。

004方形周溝墓 007方形周溝墓とは



吉原遺跡主要遺構位置図

は同じ位置で重なっています。東側が調査区域外となるため、約3/5をコの字形に検出した程度となります。墳丘部は一辺6.2mで、周溝は幅1.2～1.6m、深さ0.15～0.35mで、埋土には10～20cmの礫が多く含まれていました。遺物は弥生時代中期中葉頃の壺などが出土しています。

**007方形周溝墓** 004方形周溝墓と重なっており、それより新しい遺構と考えられます。墳丘部は一辺6.2m、周溝は幅0.6m、深さ0.2mで、南辺のみ10～20cmの礫が密集する状態となっていました。遺物は弥生時代中期の土器が出土していますが、先行する004方形周溝墓の遺物が混入したものと考えられます。

**011方形周溝墓** 周溝部が幅1.2～1.6m、深さ0.2mで、コーナー部分は攪乱によって削平されています。規模は不明ですが、復元すると墳丘部は一辺6.0m以上となります。溝内には10～20cmの礫が密集し、その下で数段の石積みを検出することができました。遺物は弥生土器の細片が出土しています。

**015方形周溝墓** 同じ軸方向で南側に拡張を行っており、最終的な墳丘部の規模は、一辺が9.0mで、周溝は幅1.0～1.9m、深さ約0.15～0.35mです。西辺の中央には陸橋部があった



004・007・011 方形周溝墓（上空から）



015・023～025 方形周溝墓（上空から）



015 方形周溝墓周溝内礫検出状況（上空から）



023～025 方形周溝墓（北西から）

ことが、礫の検出状況からうかがうことができます。周溝内からは10～20cmの礫が多量に出土しており、多くは墳丘側から落ち込んだ状態となっていました。これらの礫を除去すると、墳丘基底部に沿うように石積みを確認できました。まもとは墳丘裾部に石積みを持ち、墳丘部に葺石（貼石）などの構造物があった可能性が考えられます。築造当初の規模は一辺8.6mで、使用された礫は当初の方がやや大振りとなっています。遺物は検出時あるいは周溝内から、弥生時代後期末頃の土器片が出土しています。

023～025 方形周溝墓 015 方形周

溝墓の北西側で検出しました。溝部が明確でなく礫が並ぶ状態から3基の方形周溝墓が重複していると判断しています。墳丘裾に10～20cmの礫が集中するものの015方形周溝墓のように規則正しい石積みとはなっています。それぞれ、検出時に弥生時代終わり頃の土器片が出土しています。

023 方形周溝墓は、北西部が削平されるものの、調査区内で完結しており比較的全容が明らかとなっています。規模は南北2.3m、東西1.8mで、南辺の溝は幅0.5～1.0m、深さ0.1mです。

024 方形周溝墓は、023 方形周溝墓の

北東部に接しています。接する箇所の周溝部は明確ではありませんが、本来は溝部を共有する形態であったと考えられます。調査区内では北西コーナー付近を検出したのみです。

025 方形周溝墓は、024 方形周溝墓の北西側にあり、南東コーナー付近で重なるため、それに先行すると考えられます。残存状況は良くありませんでした。

019 火葬墓 縦横0.2m、深さ0.2mの小石室に須恵器の鉢・蓋を納めたもので、鉢内に骨灰を充填していました。須恵器の時期から、奈良時代前半代の遺構であると考えられます。

## まとめ

吉原遺跡では、方形周溝墓が弥生時代中期前葉あるいは中葉から築かれます。この時期のものとしては昭和63年の7区SX-001と今回の004方形周溝墓がありますが、これらは県内においても古い例と言えます。

弥生時代後期末から古墳時代初頭の方形周溝墓は昭和63年に7区で3基、今回の調査で6基確認しています。北西側に位置する前者は周辺地域でも確認されている方形区画に単純に溝を巡らしたもので、南東側の後者については墳丘裾部の石積みなど石を用いています。また、平成28年度調査の029列石状遺構（墳丘部3.2m×2.0m）についても、今回の調査で検出した方形周溝墓と同じものであり、遺跡南東部を中心に墳丘裾に石積みをもつ方形周溝墓が展開していた可能性が高いと言えます。墳丘裾に石積みや葺石（貼石）などの石の構造物をもつ方形周溝墓は県内では確認されておらず、似た構造のものは近畿北部や山陰地方に分布する方形貼石墓等があり、関連が注目されます。同じ遺跡内で少し離れるものの、構造の違う方形周溝墓群が存在することは、それぞれ違う集団によって造営されていると言えます。言い換えれば、畿

内地域と同じ方形周溝墓を築く集団と近畿北部や山陰地方などと繋がりがあがる集団が存在したことがうかがえます。石積みをもつ方形周溝墓の発見は、当地域の墓制や地域間交流を考えるうえで貴重な資料になったと言えるでしょう。

日高平野周辺部の古代の火葬墓は、日高川町の道成寺周辺で確認されています。国内で最初に火葬された人物は、奈良興福寺の僧侶であった「道昭」とされ、これが文武天皇4年（700）のこととされます。当初の火葬は皇族や僧侶、官人など上層階級に限られま

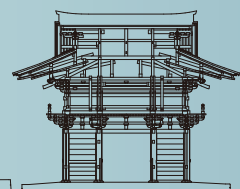
すので、道成寺周辺で確認されている火葬墓については、寺の僧侶のものであった可能性が考えられます。吉原遺跡では、これまでも古代の火葬墓と考えられる遺構は確認されているものの、明確なものではありませんでした。今回の調査では火葬が始まって間もない奈良時代の初め頃の火葬墓が確認され、道成寺周辺以外にも火葬墓があったことになりました。堅田遺跡では奈良時代前半代の郡衙跡が確認されており、ほど近い位置にある吉原遺跡の火葬墓については、役所の官人の墓であった可能性があります。（川崎 雅史）



平成28年度調査029列石状遺構（北西から）



019火葬墓（南東から）



## 施無畏寺鎮守社の保存修理

明恵上人ゆかりの施無畏寺は、有田郡湯浅町栖原にある寺院で、町の西北部の白上山の麓、湯浅湾や荻藻島を一望できる場所にあります。明恵上人は有田川町に生まれ、京都高山寺を再興した鎌倉時代の高僧で、白上山は上人が若い頃に修業をした場所でもあります。

平安時代後期当地に勢力を持っていた湯浅宗重の孫景基が、いとこの明恵上人の修行地に寺を寄進し、寛喜3年（1231）に落慶法要が行われました。寺は16世紀後半の兵火により伽藍を焼失、江戸時代前期から中期にかけて再興されました。このとき再建された本堂、開山堂、鐘楼、鎮守社の4棟が県指定文化財となっています。

鎮守社は小規模な春日造の社殿です。軒に唐破風をつけ、鴨居の上に彫刻を入れるなど正面を飾っている建物です。また、頭貫の木鼻に雲紋を彫り、手挟を籠彫とするなど彫刻にも力を注いでいます。鎮守社はこれらの様式から江戸時代中期のものと考えられています。



竣工した施無畏寺鎮守社

鎮守社は覆屋に納められていましたが、屋根の破損が近年見られるようになってきました。この檜皮屋根は、明治時代以降葺き替えが行われておらず、葺き替える代わりに瓦葺きの覆屋が建てられたと考えられます。その後、社殿の嵩上げが行われ、屋根を葺き替える作業の空間がなくなっていました。工事に際して、覆屋を揚げ屋して仮支持し、覆屋の腐朽している土台と柱を葺き替え作業の出来る高さのものに取り替えました。その後、屋根の葺き替えと箱棟の復旧、木部の補修、飾り金具の補修と新調を行いました。

修理前は屋根平葺きの檜皮がほとんど失われていたので、天井裏には落ち葉や枯れ枝などが堆積し、獣臭がしていました。除去すると天井一面に板に多数の和釘を打ち込



天井裏に設置されている和釘で作られた小動物避け

んで逆さまに置いていました。長さ45㎞の釘が約600本用いられています。現在の害獣や鳥よけのとげマット・とげシートとよく似た形状です。

和釘は今の洋釘とは異なり1本ずつ鍛冶屋さんで手作業で作っていた貴重なもので、ある寺院の工事現場では大工の棟梁が配下の職人が使った釘の本数を管理していた、と古文書に記されているほど大切に使われていました。明治時代に和釘から工業製品の洋釘に替わったので余っていた和釘を使ったとも考えられますが、これだけ多くの大事な和釘を使用するとは、よほど獣の侵入に業を煮やしていたと思われます。このような例は、今まで見たことがありません。どなたか御存知の方がいらっしゃいましたら御一報ください。

## 文化財建造物課 新任の挨拶

はじめまして。本年4月より文化財建造物課に着任しました野田達志と申します。着任から約2か月が経ち、ようやく和歌山での生活に慣れてきたところです。

私が文化財の世界に興味を持ったのは高校生の時です。文化財建造物の修理現場を見学する機会があり、歴史的に価値の高い建物を守り続けるために働く人々の姿に感銘を受けました。

大学卒業後は、建築史を専門とする研究を行うため、名古屋工業大学大学院に進学しました。研究室では、歴史的建造物の実測調査や図面作成のほか、城郭石垣の築造年代に関する研究を行いました。そのなかで、建物に残る痕跡や史料から、当時の職人が考えた計画方法、意匠、構造技術などを考察することの面白さに魅了され、修理技術者の道を志しました。

和歌山での生活は初めてです。これからも新しく学ぶことの楽しさを忘れることなく、県内の魅力をたくさん発見し、文化財の面白さを伝えていければと思います。修理技術者としてまだまだ未熟ではありますが、後世にわたって建物を守り続けられるよう努めて参ります。今後ともよろしくお願い致します。

(野田 達志)



## きのくに歴史小話

～きのくににきしこぼなし～

お坊さんに暴言を吐いた男にバチが当たって、大事なところを蟻に噛まれて死んでしまう——人によつては、股間が「ヒュン」と寒くなる話が掲載されているのは『日本霊異記』、正式な名称は『日本国現報善悪霊異記』という日本最古の仏教説話集です。この説話集は、平安時代初め頃に景戒という僧侶が編集しました。様々な話があり、そのうち紀伊国に関連する話は13話も収録されています(次に多い国は武蔵国で3話)。

冒頭の話も紀伊国の話で、舞台は伊刀郡桑原の狭屋寺、信仰心厚い女性が寺の法要に参加していましたが、女性の夫は仏教を敬わず、妻を連れ戻しに寺にやってきて寺の僧侶に暴言を吐きます。その後夫は股間を蟻に噛まれ、その傷が原因で死んでしまうのです。悪い行いには悪いことが返ってくる、因果応報を説いた話ですが、この信じられないような話、全て創作なのでしょうが？

伊都郡かつらぎ町にある佐野寺跡では、これまで何度か発掘調査が行われおり、東西80m、南北109mの寺域を持ち、金堂・塔・講堂が建てられていた、奈良時代の立派な寺院跡であることが分かりました。また、出土した瓦の文様が、奈良県の川原寺跡のものに影響を受けていることや、同じ時代に県内で建立された複数の寺院跡から、佐野寺跡で出土した瓦と似たものが出土することなど、寺院同士が何らかの関係を持っていたことも分かっています。現在では、この佐野寺跡が『日本霊異記』に出てくる「狭屋寺」であると考えられています。

「狭屋寺」は実在したお寺であるなら、蟻に噛まれた話も本当なのかも……因果応報、身に覚えのある方は、善行を積み、一度現地を訪れて日頃の行いを反省してみては？

(濱崎 範子)



佐野寺跡金堂跡から出土した創建時の瓦 (和歌山県教育委員会提供)

## 催し物案内

和歌山県内の文化財関係イベント情報（2023年夏～2023年秋）

### 和歌山県立紀伊風土記の丘

- 夏期企画展「紀伊の地を馬が駆ける」 2023年7月15日（土）～2023年9月3日（日）
- 展示講座②「夏期企画展」 2023年7月16日（日） 13：30～15：30
- 秋期特別展「律令国家成立前夜－紀伊と古代氏族－」  
2023年9月30日（土）～2023年12月3日（日）

### 和歌山県立博物館

- 夏休み子供向け企画展「きのくにのかたな－和歌山県立博物館の赤羽刀－」  
2023年7月1日（土）～2023年8月27日（日）
- 企画展「法燈国師」 2023年9月2日（土）～2023年10月1日（日）

### 和歌山市立博物館

- 企画展「しはくどうぶつえん」 2023年7月19日（水）～2023年9月3日（日）

### 高野山霊宝館

- 宗祖弘法大師御誕生1250年大法会記念展「お大師さまから・お大師さまへ」  
2023年4月15日（土）～2023年10月9日（月・祝）

※掲載内容は変更される可能性があります。詳細や講座の受講方法については各施設へお問い合わせください。

#### 目次

- 1 表紙
- 2 特集「吉原遺跡、松原経塚の発掘調査」
- 6 文化財建造物課 短信「施無畏寺鎮守社の保存修理」
- 7 きのくに歴史小話「文化財建造物課 新任の挨拶」  
「埋蔵文化財課 『日本霊異記』と和歌山（1）」
- 8 催し物案内

## 風車101（2023・夏号）

令和5年6月30日

（公財）和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

（公財）和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263 番地の1  
TEL 073-472-3710 FAX 073-474-2270  
kanri-2@wabunse.or.jp



LINE公式アカウント

ID : @942tjyhk

